

公益財団法人愛知県文化振興事業団 令和5年6月通常理事会議事録

1 開催日時

令和5年6月8日（木） 午後2時から午後3時45分まで

2 開催場所

愛知芸術文化センター12階 アートスペースA

（名古屋市東区東桜一丁目13番2号）

Web会議システム（Zoom）使用

3 理事現在数

12名

4 出席者

理事 8名（太下理事は遅れて参加のため、開会時は7名）

篠田信示、伊藤弘憲、上山信一、太下義之（Web会議システム使用）、

久富木原玲、杉山勝、田中範康（剛）、宮崎敏明（Web会議システム使用）

監事 1名

加藤勝利

説明した者

芸術劇場館長兼劇場運営部長 浅野芳夫

企画制作部長 藤井明子

広報・マーケティング部長 林健次郎

総務部長 岡田浩志

総務部総務グループチーフマネージャー 安藤俊雄

立会人

愛知県県民文化局文化芸術課 課長 市川真

愛知県県民文化局文化芸術課 担当課長 吉川明志

愛知県県民文化局文化芸術課 主事 伊藤奈々

5 定足数の確認及び議事録署名人

定刻の午後2時、司会者の安藤チーフマネージャーが開会を宣言し、理事長あいさつの後、司会者が「本日の理事会は、太下理事・宮崎理事はWeb会議システムを使用して参加する」旨報告し、当該Web会議システムは出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにでき、出席者が一堂に会するのと同等に十分な議論が行える環境であることを確認し、「理事現在数12名のうち、

出席者7名で、定款第45条の規定による過半数の出席を得ており、有効に成立している。」旨報告した。

次に、定款第44条の規定により理事長が議長となり、はじめに本理事会の議事録署名人について、定款第48条の規定により理事長と出席監事である旨確認した。

6 議案審議

第1号議案 令和4年度事業報告について

第2号議案 令和4年度収支決算について

第3号議案 令和5年度事業計画の変更について

第4号議案 令和5年収支補正予算について

第5号議案 令和5年6月定時評議員会の開催について

第6号議案 公益財団法人愛知県文化振興事業団会計処理規程の改正について

7 報告事項

第1号報告事項 財産の運用について

8 その他

令和4年度愛知県芸術劇場及びアートスペース利用者満足度調査結果について

9 議事

議長は議事に入り、第1号・第2号議案及び関連する第1号報告事項について事務局に説明を求め、岡田総務部長及び浅野芸術劇場館長兼劇場運営部長が、令和4年度の実施事業について説明を行った。続いて岡田総務部長が令和4年度収支決算及び財産の運用状況について説明を行った。続いて加藤監事が監査報告を行った。質疑の後、採決を行った結果、異議はなく、第1号・第2号議案は承認された。

<監査意見>

(加藤監事) 概ね適正と認められる。概ねという意味は、先ほど総務部長からお話のあった注記事項の10番、外国のジェーピーモルガンとクレディスイス銀行の債券に関して、3月31日における時価が非常に低かった。5月末の評価を見たところ、概ね5割くらい回復している。今回こういう債券価格が下がったというのは、世界経済で金利が上昇した。金利が上がると債券の価格は下がる。幸いにも5月においてかなり回復した。私の監査意見としても、こういう状況は望まれるものではない。回復可能であろうと推測するしか現時点ではない。その期限が会計では1年くらい。これは実現した損失ではないので、概ね適正、金額的に重要性の原則の範囲内という私なりの判断で監査報告させていただいた。

<主な意見>

(上山理事) 事業報告をみるとヌトミック「ぼんやりブルース」は満足度が相対的に低く、定員に対して来場者数も4分の1程度で、結果的に割と低調だ。しかし、再演と

あるので、以前はきっと良かったのだと思う。それが今回はいまひとつになっている理由は何か。

(藤井部長) この公演はヌトミックとの共催で実施したものだが、小ホールに合わせて少し改変した形で上演した。初演を見たプロデューサーがミニセレの方針に合った実験的・先駆的な内容で面白いと判断して上演した。前回と少し改変されていたということもあると思うが、愛知でのお客様では満足度は少し低かった。来場者数が非常に少ないのは、共催事業では、チラシ等を作って広報するところを、アーティスト側がまずは主として行い、それを当事業団が補助する形でやっているが、情報が出てくるのが非常に遅くて、対応がかなり遅れたことが響いたからと思っている。今後はアーティストとの共催であっても、主催事業の1つであれば、進行管理はしっかりとやらねばならないと反省したところである。

(久富木原理事) 全国共同制作オペラは大変大きな反響があったとのことだが、私も拝見し、大変意欲的な素晴らしい舞台だったと思う。イタリアオペラを日本の文楽の手法と組み合わせて、おそらくそういう試みは今までなかったと思うが、非常に面白く拝見した。東京芸術劇場との共同制作ということだったが、こういう試みは今までもあったのか。今後もこういう企画を進めていく予定はあるか。上演が愛知県では2回だったが、東京ではどれくらいだったか。愛知・東京以外の所でも上演はあったか。

(浅野館長) ご覧いただきありがとうございます。今までも、東京芸術劇場だけでなく他の所ともオペラの共同制作に取り組んでいる。今後の予定については、共同制作オペラは1館だけの意見ではなかなか難しいところもあるので、話がまとまれば取り組んでいきたいと思っている。東京公演の回数は2回で同じ回数だが、入場者数は東京の方がたくさん入っている状況であるが、愛知の方でも比較的多くの方に見て頂けたのではないかと思う。少し変わったオペラにはなるので、本格的なオペラファンの方の集客がなかなか難しいところではあったが、オペラを初めてみる方に門戸を開くという意味で非常に意義のある公演であったと思っている。

(久富木原理事) 本格的なオペラがお好きな方にはちょっとあれ？と思われたかもしれないが、日本の伝統芸能を合わせたというところが大変意欲的だったと思う。他の芸術劇場と一緒にやることで色々な試みができるかと思うので、ぜひ進めていただければと思う。

(篠田理事長) 共同制作は、うちのプロデューサーも東京芸術劇場の方で長期に渡って一緒に仕事をしたということで、職員にとっても非常に勉強になった機会だったと思っている。

(岡田部長) 基本財産の額が、時価が帳簿価額を大幅に下回っているということは私の方でも重く受け止めているので、動向を把握して状況を注視してまいりたいと考えている。

(篠田理事長) 満期保有目的の債券ということで、満期保有できれば券面額どおりということで今まで運用していた。今回非常に重く受け止めなければならないのは、

評価損益のところでは合計1億という大きな額の評価損益が出ているということで、今まで見てきた中でここがマイナスになったことはかつてないことで、この事実については重く受け止めなければいけないと思っている。これから検討しなければいけないと思っているが、基本財産の評価損益が発生したことについて、我々もきちんとウォッチしていかなければならない。しっかりと時価情報を注視していくということをまずはきちんとやりたいと思っている。その状況によっては、理事会の方にもしっかりとご報告させていただきたい。昨年の7月の理事会で基本財産の状況報告をさせていただいたが、当年度の売り買いの状況だけを報告させていただいたところ、上山理事から、全体の運用状況をしっかりと報告するようご指摘も受けており、そのご指摘は今回のような状況を反映する形になっている。基本財産なので、満期保有目的で持たざるを得ないが、時価状況についてもしっかりと毎回見ていきたいと思っているので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

次に、議長は第3号議案について事務局に説明を求め、藤井企画制作部長が令和5年度事業計画の変更について説明を行った。質疑の後、採決を行った結果、異議はなく、第3号議案は承認された。

<主な意見>

(上山理事) 戯曲とは何か問い直すというのは文学的・抽象的すぎてよく分からない。今までの事業をどう総括し何を見直すのか、具体的に説明をお願いします。

(藤井部長) 「戯曲とは何か」をテーマに掲げて戯曲を募集する戯曲賞として、今まで8回募集を行ってきたが、その方法を今一度見直したいと思っている。というのは、社会情勢に合わせて応募してくる戯曲が少し変わってきているのではないかということ、審査する側がこういう戯曲を求めるといのがしっかりと伝わっていないのではないかということ、審査を行っていてここ数年両者に乖離があるのではないかということが審査員・企画者の中で言われてきた。ということで、今年は例年通り戯曲を募集するのではなく、今の時点でこの戯曲賞で募集したい戯曲とはどのようなものなのかということをもう一度振り返るようなシンポジウム、これまでに受賞した人はどのように考えて応募したのかなど聞く講座などを考えている。

(久富木原理事) 講座ということだったが、これは広く一般の方々も参加できる、聞ける形のものか。

(藤井部長) そうである。戯曲に関心のある方であれば、一般の方も参加できるものを考えている。

(篠田理事長) 補足だが、事業計画の頭書きのところでは、企画制作部長からも説明があったが、前回3月の理事会のときには、「「劇場音楽堂等機能強化総合支援事業」の「劇場による地域文化向上プロジェクト」(申請中)に基づき、」という記載があり、「劇場音楽堂等機能強化総合支援事業」とは何かという質問があつて、本日机上の資料に記載させていただいた。この助成金は結果的には取れず、「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」で採択された。この助成金が取れば5年間計画でやれたが、

今後は1年ごとに当面は申請していくことになる。その中で補助額が見込みより落ちることになるが、すでにある程度事業は進めているという状況にあり、今後事業推進の中で規模ややり方等を見直して執行額を落としていくという方向で進めさせていきたいと思っているので併せてご報告させていただく。

次に、議長は第4号議案について事務局に説明を求め、岡田総務部長が令和5年度収支補正予算について説明を行った。質疑はなかったため採決を行った結果、異議はなく、第4号議案は承認された。

次に、議長は第5号議案について事務局に説明を求め、岡田総務部長が令和5年6月定時評議員会の開催について説明を行った。質疑はなかったため採決を行った結果、異議はなく、第5号議案は承認された。

次に、議長は第6号議案について事務局に説明を求め、岡田総務部長が会計処理規程の改正について説明を行った。質疑はなかったため採決を行った結果、異議はなく、第6号議案は承認された。以上をもって議案審議は終了した。

最後に、議長はその他の報告に移り、令和4年度愛知県芸術劇場及びアートスペース利用者満足度調査結果について林広報・マーケティング部長から説明を行った。

<主な意見>

(上山理事) 調査は丁寧にやられていて、評価点も過去最高ということで非常に結構なことだと思う。今後に向けて大事なことは、「まったく満足でない」「あまり満足でない」と回答された方々がいるので、これについてどういう対応をされているのか。次に向けた改善のためには低いところを変えていくのが重要だと思うが、それについて具体的にどういう仕組みでやるのか。

(林部長) 自由記述欄に記載されている範囲から不満の原因を読み解こうとするが、調査は郵送かつ無記名でやっており、当事業団から事実関係を確認することができないので、原因を特定するのは難しい。劇場部分については、現場スタッフから日々報告書が上がってくるので、そこから類推はできるが、調査回答とレポートは紐づけられていないので、この利用者はこれが原因で不満足だったからこれを改善するという個別での対応はできず、全体論の中で推測するしかないのが現状である。日々の運営の中で出てきた課題を1つ1つクリアするというのが一番早いと思う。

(上山理事) P13-14にあるお客様の声というのは、最後の自由記述欄にあったものか。満足でないという項目の所に具体的になぜなのかを書いてあったわけではないということか。

(林部長) そうである。それを特定するには、ヒアリング調査をしないと分からない。お客様が不満に感じた原因は、サービスそのものなのか、不満に対するスタッフの対応なのか、無記名式の郵送調査では分からない。

(上山理事) 団体に対して聞いている訳か。

(林部長) そうである。

(上山理事) 利用者と言っているが、観客席に来た一般のお客様ではないということか。

(林部長) 来場者ではない。主催者である。

(上山理事) ということはプロの方なので、とんでもない回答はそうないはず。そこで「まったく満足でない」という回答が、例えば P11 の真ん中で 2 件あるのはなぜか。誤解や行き違いがあったかもしれないが、なぜなのか聞かないといけない。次回調査される時は、それぞれの項目に対して具体的にどうすべきか、何が良くなかったかちゃんと聞いた方がよい。ここまで全体の点数が上がっていると、下の方をどれだけ消していくかというところが課題だと思う。せっかくアンケートをお金をかけてやるなら、どういう風に良くなかったのかちゃんと突っ込んで聞くべきだと思う。

(林部長) アンケートを無記名でなく記名にするか、質問項目で不満だった点を具体的に書いてもらうのだが、考えられるのは後者かと思っている。

(上山理事) そうだと思う。記名だと自分が誰か分かって嫌な人もいる。

(林部長) 記名にすると評価が上がる傾向がある。実態が正しく反映されるか心配である。

(上山理事) 記述欄をちゃんと入れておけば書く人は書くと思う。それから P11 (13) の利用申請手続については、キャッシュレス問題とも絡むと思うが、非常に具体的な話なので心当たりはないのか。

(林部長) 申請手続については、10 年前に指定管理に移行したときに現館長が申請書類を大幅に減らし、簡略化を進めてきたが、更なる見直しが必要かと思う。同時に、今回キャッシュレス決済が導入されることにより、評価がどのように変化するか注視していきたい。後は土日に(予約が)取れないといったこともあるが、これはなかなか対応が難しい。

(上山理事) アートスペースの方も平均点は上がっていて良いが、マイナスがついているところはなぜなのか探求すべき。民間企業でホテルなどもそうだが、苦情を言って来た人に直接お伺いして、もっと言って下さいと言ってファンになってもらうのは常套手段。ここまで聞くなら根掘り葉掘りこの際全部という感じで、行ってお話を聞くくらいの熱量があるといいと思う。公立でこういう調査をちゃんとやっているところは少ないと思うので、ここまでやられていること自体は素晴らしいと思う。素晴らしいがゆえにさらに上を目指していくべきだと思う。

(林部長) 基本的に劇場には支配人がいるので、ご意見・ご要望があるときには細かく聞き取りをした上で、報告書も上がってくる。さらに、支配人による会議の中で、どう改善したらいいかを議論し、実行している。小さな改善も含めて日々頑張っている。

(宮崎理事) P11 の (12) (=ソフト面) (13) (=利用申請手続) について、弊社も 2

回くらい芸文をお借りしたときに、まったく満足でないと答えた方もたぶんだが、入口の方が結構厳しい。言葉遣いがすごくきつい。意見を聞かれたら同じことを言おうと思っていたが、同じことを言われたので、まったく満足でないという方はたぶん、入口の方が言葉遣いがきつい方がいるので（そのせいではないか）。（13）については、2回ほど申請を出したが、コロナの関係で楽屋から楽屋への移動ができないとか、禁止行為が大変厳しかったので、使う方としては非常に使いづらかった。コロナで楽屋から劇場に行けなかったときもあったので、そういうのが非常に面倒くさかったのがあるのではないかと推測する。先ほど言われたように、もっと深く何が悪かったのか聞かないとこの辺は改善ができないと思う。特に（12）は思い当たる方が何人かいるので、これだけ改善した方がいいと思う。

（浅野館長） そのように感じられたということで、大変ご迷惑をおかけした。窓口業務またはホールのフロント業務になるかと思うが、内部できちんと話をして言葉遣い等気をつけるよう指導していきたい。コロナ禍についても大変ご迷惑をおかけした。なかなか対応が難しかったところだが、現状は通常どおりコロナ禍以前の状態に戻っているので、そういったご心配はないかと思うが、今後についてもまたご意見を賜りたいと思う。

（篠田理事長） 上山理事・宮崎理事からもご指摘があったが、アンケートの仕方を工夫していただき、客観的なデータで反省すること、今後直していかないといけないことを拾い上げるのがこの調査の趣旨だということなので、今日の理事会でのご意見をふまえてしっかりと取り組んでいく。

予定の議題終了後、中長期計画の数値目標について発言があった。

<主な意見>

（上山理事） 傾向として下の方（の項目）は結構いい。例えば会員制度の会員数は2万人には届かないがいいところまで来ているし、ファミリープログラムの新規来場者率も目標30%に対して5割6割いっている。子どもやファミリーは頑張っている感じがこの指標をみると出てくる。上の方は、自主事業のところで達成していない数値が結構多いが、もしかしたら目標値が高いのかもしれない。それから前にも議論したことがあるが、自主事業公演の支出に対する入場料収入の割合は、高い方がいいが、自主事業の性格に照らして、そもそも55%というのが妥当なのかという素朴な疑問が出てくる。入場者率も低くはだめだが、演目によってはそもそも大きなホールでやるのが不適切なものもある。そういうものまでカウントするのはアンフェアかもしれない。税金を使う以上は数値目標と達成度はちゃんと示せという議論にはなるが、この辺りは、丁寧な説明を備考欄にもう少し書くことがあるのではないか。この資料1枚だけでああだこうだ言う訳ではないが、この数値を自分たちはどう解釈しているかちゃんと書いて、この数値から直接分からないことも含めて、これについてはこういう風に努力するつもりだというのが、せっかくこういうものを作るのであれば、もう少し整理されるといいかと思う。それを丸ごと理事会に出す

かは別の議論だが、先ほどのアンケートと同じで、調査して実態を把握して、できた・できないを見るのはいいが、そこから先がもっと大事。その部分を特にしたいし、そういう情報提供があれば理事会の方でも貢献できる議論ができる。その辺を今後また考えていただければと思う。

(林部長) 部長職によるミーティングを行っている。未達成数値に対して、このように考えているというのを役員に報告し、それに対する役員からのフィードバックもある。さらにそのフィードバックに対して、部長職はこのように考えているというやり取りを3・4回ほど繰り返しながら、評価・分析している。その結果が数値改善にどのように貢献したかというステージには達していないが、引き続き内部で議論しつつ、理事の皆様にもご助言・ご指導いただければと思う。

(篠田理事長) 内部的には、この数値についてどのように評価し分析し、今後どうしていくかやりかけているが、なかなか難しい。1つは、先ほど上山理事が仰ったように、そもそも目標の設定数値をどのように考えるかはっきりしないというのがある。計画としては今年度までなので、当面はこの数値ありきで考えていくが、次期に向けての議論の中でももう少し掘り下げて、実態に合った整理をするのではないかと感じている。もう少し突っ込んだ分析が必要だというのはご指摘のとおりである。できるだけ簡便で分かりやすい形で、理事会にもこういった机上配付の形でまたご意見をいただけるような機会があればと思っている。

(上山理事) 今の指標は21個あり絶対数として多すぎると思う。10個くらいでよいのでは。一方で、実態を見るという意味では測定した方がいいものもある。国交省の政策評価会で座長をやってきたが、そこでも昔は指標がやたら多くあった。それを参考指標と目標指標の2つに分けた。参考指標は見ていかなければならないが、必ずしも目標にしない、現状を見るもの。人間ドックの数値みたいなもの。最近どうかを見る意味ではいいが、目標を達成した・しないという意味で見ると、達成済みのものは目標にしてもしょうがない。あまりざっくりしたものを目標にしても現場が困るし、どちらかというとな簡素化という方向にいった方がいいのではないか。

(林部長) 同じ議論が内部でもある。いわゆる KGI と CSF と KPI が整理されないまま数値として上がってしまった。例えば健康でいたいという目標があって、血圧とコレステロールを数値として見ることになり、具体的な取組みとして食事・運動・睡眠があるが、この3つの考え方が全部21の指標に落ち込んでいるので、この辺りを整理していこうかと思う。

以上のとおり、本日のWeb会議システムを使用した理事会は終始異常なく進行し、議長は午後3時45分、本理事会の閉会を宣言した。